

4年生不在でできたこと



2000年 編集部

この年は、部員数4年生0名、3年生3名、2年生2名、1年生2名、交換留学生1名で、人数は少なくアットホームな雰囲気ของทีมであったが、古豪として重圧との戦いであった。

練習では、想像以上のメニューを出してくる監督、そして叱咤激励に来られるOB諸氏。この年は、多くのOBがマットに集まり、指導をしていただいた。そして、間違いなくOBの名前を一番覚えた年であったと振り返る。特に佐々木OB(元監督)、笹井OBについては、コーチでもないのにかかわらず、定期的に練習にお越しいただいた。それほど『今年に本当に厳しい戦いになる、OBに出来ることは何か』と先輩方が真剣に現役部員のことを考えていただいた年であったと思われる。

当時の練習は、基礎の基礎から徹底的に教えられた。全員一斉で腕取りタックル、持ち上げタックル、がぶり返し、飛行機投げ、そり投げ。マット運動だけでも全員が綺麗に出来るまで終わらず、最後まで出来ない選手には罵声、延々と続くやり直し。練習後の補強も然り。

石川県の夏合宿では、毎朝砂浜での2時間密度の濃いトレーニング、昼のマット練習。大変厳しかったが、民宿の料理と夕方のバーベキューは絶品であった。4日間過ごした後、金沢駅を出発、米原駅で「大阪駅行き」に乗換え。そのまま乗っていれば良かったものの、彦根駅で途中下車、3日間近江高校で赤井先生にお世話になることとなった。

ここでは、石川県とは比べもんにならないくらい大変な宿舎で、ロードワークも厳しかったが、互いに人数が少ないチームであったためか、雰囲気良く合宿を行うことができた。

この年は、とにかく量をこなしたチームであり、本当に根性がついたし、体力が一段と向上した。

これだけ練習したのだから結果がつくものと思いきや、西日本レベル以上の大会では、新人戦で遠藤の3位のみ、リーグ戦では前年から大きく転落し、秋にも順位を下げってしまった。この年ほど努力が報われないと感じた年はないだろう。それは、全員が思っていたに違いない。秋リーグが終わって思い立ったことは「次年度こそ必ず結果を出したろ」であった。

4年生が不在であったが、翌年にむけ良い経験をする事ができた。4年生がいなかったから得ることが多かった。一人一人が、意識を変え、取組み姿勢が変わり、貴重な経験を得ることができた2000年であった。そして、3年生三人は、翌年にもう一度最上級生を経験することができ、厚みのあるチームとなった。

余談であるが、内一人はさらにもう1年間、最上級生を経験することとなり、現在では、立派に日本の治安のために働いておられる。

最後にこの年の出来事として…。この年、顧問の伴義孝先生が、還暦をむかえられ、現役部員も先輩方と一緒に記念写真を撮ることとなった。その日は、世間で言うGWであった。

何も知らされていなかった当時の部員は、練習前からぞろぞろ現れる先輩方に恐れをなしていた。そして、伴先生も登場…

「今日は、なんや?? えらい目にあわされるんちゃうか… (怖)」 Y田、I田、T山、K藤…、よくマットで暴れて帰る方ばかりだ。「昼のマットには上がらないでくれよ、夜だけでいいじゃないか」とつくづく感じた。

練習が始まると、やはり遠慮なしに皆がけちょんけちょんにやられ、マットにへばりついてた。

練習が終わると、伴先生を真ん中に記念撮影。全員赤色のシングレットに着替え、ハイ、チーズ。

この年は、暗い中でも何か「一体感」があったように思う。

(比与森正志 2000年度3年生)



還暦を迎えられた伴先生を囲んで

「2000年の陣容」

顧問 伴 義孝
 監督 横山博行
 コーチ 相田哲夫・小寺斉人・谷山亮介
 安田忠典・山本茂廣
 主将 浅井隆宏
 副将 関 浩一
 主務 比与森正志
 学連 -
 4年生 -

3年生 浅井隆宏・関 浩一・比与森正志
 2年生 遠藤拓磨・松浦崇明
 1年生 小河暢一



夏合宿・石川県志賀町

「2000年の試合結果」

大阪府民体育大会

54キロ級 第2位 比与森正志
 58キロ級 第2位 浅井隆宏
 69キロ級 第3位 関 浩一
 85キロ級 第2位 谷山亮介 (OB)
 97キロ級 第3位 小河暢一

西日本春季リーグ戦

2部4位 (2勝3敗1分)

西日本学生選手権大会

G76キロ級 ベスト8 遠藤拓磨

西日本学生新人選手権大会

F76キロ級 第3位 遠藤拓磨

西日本秋季リーグ戦

2部7位 (2勝2敗)